

Title	企業イメージ戦略 - 情報処理戦略を中心として -
Sub Title	
Author	岩本博(Iwamoto, Hiroshi) 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第585号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0585">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0585</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 岩 本 博  
(ジャスコ株式会社)

主査 和 田 充 夫  
副査 片 岡 一 郎

所属ゼミナール 和 田 充 夫 研

池 尾 恭 一

## 企業イメージ戦略 — 情報処理戦略を中心として —

企業の成長・発展には、多くの場合、新製品・関連製品の開発を通じた事業範囲の拡大や多角化および市場の拡大とが伴っている。その場合、企業イメージの拡散による市場競争力低下が問題になってくる。

このような背景から CI 導入の動きが活発化してきたわけであるが、これまでの CI 論は大別して、企業イメージの向上と組織の統合という 2 つの視点から研究されてきた。しかし、その効果測定については不明瞭である。

本研究の目的は、企業のイメージ戦略を資源蓄積の観点から捉え、CI の企業イメージに与える効果を探ることにより、企業イメージ向上のための最適情報処理戦略を構築することにある。

本研究では、情報処理戦略を経営資源の中の情動的資源として捉え、情報処理戦略を、①情報発信活動、②情報収集活動、③内部情報処理活動という 3 つの分野に分けて、それぞれの分野での CI 効果や企業イメージ効果を探るといったアプローチを試みた。

実証研究の結果、CI は情報処理戦略の 3 つの分野全てに影響を与えているわけではなく、情報収集活動や内部情報処理活動の一部のタイプにのみ影響を与えていることが明らかとなった。

また、情報処理戦略の 3 つの分野での戦略パターンと企業イメージとの関係を分析することにより、企業イメージに与える効果的戦略パターンが明らかとなった。

以上の結果から、本研究では企業イメージの効果的蓄積方法を、情報処理戦略の 3 つの分野での最適戦略として特定し、それぞれの戦略を実施する上での有効的 CI 戦略のあり方について提言を行った。